

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700399		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおとふけ		
所在地	音更町木野大通東17丁目1-4		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0194700399-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設2年目のグループホームです。商業地区にあり日常的な外出機会を持ちやすく、国道にも近い
ため面会等にも公共交通機関の利用がしやすく便利です。徒歩範囲に協力医療機関があり、定
期的な往診と訪問看護で健康面のサポートを受ける事ができるため安心して生活することができ
ます。国道の反対側には閑静な住宅街があり、町内会に加入し地域の一員として活動したり支援
を受ける関係づくりに努めています。
年に数回は事業所全体としてご家族参加型の行事を行ない、日常的に気軽にご家族が立ち寄れ
る雰囲気づくりに努めています。
運営会社の母体法人が給食会社であるため、栄養バランスと楽しみを兼ねそろえた献立となつて
おります。充実した社内研修制度と職員体制により、安定したサービス提供に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

音更町の商業地域に位置している、「ふれあいの里グループホームおとふけ」は、協力医療機関が隣接しており、利
便性と共に医療面での安心感が得られている。開設時に管理者、職員で作り上げた理念「笑顔でゆとりのある空間を
めざします・人と人のふれあいを大切にします・尊敬する心を持ち共に支えあいます」は、どんな介護をしたいかで
は無く、自分だとしたらどんな所に住みたいかをキーワードに、利用者の立場に立った視点を大切にしている。管理者
は、職員一人ひとりが利用者向き合い、その人にとって最善のサービスを提供出来る様に職員の意見や提案を幅
広く把握するアンケートの実施や、実践につなげ検証する”試行ファイル”作成等、様々な工夫を取り入れている。利
用者のストレス軽減や職員の就業環境整備のため、1階、2階のユニット兼務職員と各ユニット専従職員の体制を取
り、常に情報の共有に努め、更に利用者のニーズに合わせ必要なサービスを記載したサービス提供一覧表を作成
し、どの職員も均等なサービスが出来る様配慮している。職員は母体会社による研修や外部研修に参加し、スキル
アップに努めている。代表者、職員は事業所の様々な行事に家族の参加を呼びかけ、家族との繋がりを大事にしな
がら共に利用者を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを よく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪 ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつなが りが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみ られている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせてい る (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足し ていると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援によ り、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で話し合い事業所理念を作成し、ホーム内の数か所に掲示しています。入居者一人ひとりの事を考え尊敬する心を忘れず、悩んだ時には理念に立ち返り日々のケアに取り組んでいます。	法人理念に加え、開設時に職員で話し合い独自の理念を作成し玄関等、目に付く所に掲示し、浸透を図っている。職員は常に意識しながら理念に沿った実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し行事や会議などに参加しています。町内や近隣市町村での行事(祭り、収穫祭等)への参加や隣接の他施設との合同夏祭りなど、地域とのつながりを大切にしています。	町内会に加入し町内行事や総会等に参加したり、隣接の協力医療機関や有料老人ホームと合同で夏祭りを開催し、地域との交流に努めている。災害時の協力を近隣町内会に要請する予定と成っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな活動には至っていませんが、町内会等の地域住民との交流時や町民の見学時などには認知症への理解が深まるよう相談助言を行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い各ユニット・事業所全体での取り組みや、入居者及び職員の状況についての報告を行っています。参加者からは意見・提案などを頂きサービスの向上に活かしています。	2か月に一度定期的開催し状況報告、行事報告等話し合い、時には消防職員や行政職員の話等、内容の工夫をしている。意見や提案は職員全体会議で検討し、全家族に議事録を送付して情報の共有を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは運営推進会議以外にも常に連絡を取りあい、ホームの運営や利用者の状況について細かく把握して頂き、相談しやすく適切な助言を頂ける関係を築いています。	運営推進会議に町職員や、地域包括支援センター職員の参加を得ている。困難事例の報告や相談、情報交換等、連携に努め、協力関係を築いている。開設時に町からの補助金を受け加湿空気清浄機等の必要物品を購入している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が身体拘束になるか外部・内部研修に参加しミーティングでの報告を行っています。入居者様の気持ちを尊重し、帰宅願望があれば会話をもち、行動では見守りを心がけています。転倒リスクのある方にはご家族と相談し最善の方法を考え不適切なケアにならないよう心掛けています。扉は常に開放していますが夜間のみ防犯上施錠しています。	法務局職員を招き内部研修を実施したり、外部研修参加時には報告の機会を設け、身体拘束をしないケアへの理解を深めている。気になる言葉使い等は、会議で話し合い職員の気付きを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際にあった新聞記事を職員の休憩室に掲示し啓蒙しています。外部研修や内部研修の参加を行い学習の機会を作っています。絶対にあってはならない事のため、特に言葉による精神的虐待にならないよう職員同士で注意したり事業所内会議で考え、常に意識していけるようにしています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はあるが現在までの入居者に該当者がいないため活用には至っていません。知識も職種によりばらつきがみられます。成年後見制度については今後利用される方もいると思うので御家族へ説明出来るよう内部研修などを行い学習の機会を増やしていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が全て対応しています。文書を用いて口頭での説明を加えながら詳しく説明を行い、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得のうえで契約に至っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族は面会時などに管理者・計画作成担当者・職員の誰にでも話して下さっています。要望やご意見は早期に反映しミーティングやミニカンファレンスなどで検討・改善できるよう努めています。	毎月発行する事業所便りに利用者の様子を個別に報告している。家族の訪問時には様子を説明し、何でも言って貰える関係を築いている。また家族参加の行事を多く計画し、家族とのつながりを大切にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はミーティングを行い職員の意見や提案を聞く機会を設けています。年2回は管理者と個別面談などで職員の意見を聞く機会を設け言いやすい環境作りにも配慮しています。代表者へ意見が伝わり反映されるよう地区担当者や管理者が報告を行っています。	管理者は、月1度開催の全体会議時に幅広く職員の意見を聴くため事前にアンケート形式で意見を求めると共に、ユニットカンファレンスや日常業務時を職員の意見や提案を聴く機会とし、運営に反映しモチベーション向上に繋げている。定期的、また随時職員個人面談を実施し、意向や意見を把握し、運営や就業環境整備に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事内容や労働時間は無理な勤務にならないよう配慮されています。休日等は職員の希望を考慮し働きやすい環境作りに努めています。資格や在職年数により違いがあるため職員が納得できる給与体系には時間を要します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行っており経験年数に応じた研修会へ全職員を対象とし勤務時間内で行っています。外部研修には多くの職員が参加できるよう休憩室に掲示しています。研修発表の場をミーティング内で設け情報の共有化をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にも積極的に参加しており同業者と会う機会はありますが、交流の機会としてコミュニケーションを図れる人と学習のみで終わる人がいるため性格や目的意識により個人差があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集した上で入居の準備を進めています。入居前に本人や御家族と面談やホームを見学していただき入居してから不安なく生活してもらい、要望など言っていたけよう気を配り住みやすい環境に出来るよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族と面会を行い困っている事・不安な事・要望などを伺い、必要な情報は全職員で共有しています。今後も、御家族の方には些細なことでもホーム長・計画作成担当者・職員に気軽に声を掛けていただけるようお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には他サービスも含めて検討し助言しています。今後も、入居相談の段階で在宅継続やリハビリ施設などの紹介を行っていきけるよう努めています。入居段階では福祉用具などの活用を紹介し本人や御家族と一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として関わりあっていく関係作りに努めています。声掛けの仕方に工夫をし、出来るだけ入居者自らきていただくようにしているが、職員の声掛けで動く事が多い為「役割を持つ一員」として理解してもらえるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会や外泊の機会を大切にしながらホームに来やすい明るい環境を作るように心掛けています。ご本人にとって家族が大切ということを共感し支え合えるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪れやすい雰囲気作りに努めており、多くの来訪があります。ホームからお墓参りや自宅庭の手入れに行く時もあり、通い慣れたスーパーへ買い物に行く方もいます。同じ町内に住んでいる職員が多く馴染みの場所についてお話しをしたり、天候の良い時には外出をして気分転換を図っています。	自宅に外泊したり、庭いじりに帰宅したり、友人が訪ねて来た時には歓迎する等、家族にこれまでの暮らしの様子を聞き協力を得ながら、利用者のこれまでの馴染みの人や場所、習慣を大切に支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が顔や名前を覚え会話が増えたり、食事中に気にかけてくれたりしています。集団を避ける入居者や寝たきりの入居者は孤立する事ないように職員が気を配り声を掛けに行ったり見回りを多くし、支え合えるような支援に全職員努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居された方はいませんが今後サービスが終了された場合でもご本人や御家族との関係性を大切に継続的に相談や支援が行えるよう努力したいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えは少ないので希望を聞けるよう努め職員同士で情報収集を行っています。利用者がたくさんいると話しづらい方もいるため入浴中や居室で休まれている時に話を聞き、時には自分の意思を述べられる事もあるのでケアに反映できるよう職員全員で検討しています。	センター方式によるアセスメントや家族からの情報を基に生活歴を把握し、日常の関わりの会話や様子から思いや意向の把握に努めている。重度の利用者が多いユニットには、職員を多く配置し、十分な関わりが持てるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に担当職員やケアワーカーなどより情報提供を頂き、御家族にはフェイスシートの記入に協力いただき一人ひとりの馴染みの暮らし方・今までの生活環境などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の記録や日々の記録に記入し現状の把握に努めています。有する力が介護者によって阻害されないよう情報共有をし日々の変化を伝えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉や課題について探り、ご家族の面会があった時に話し合い、意見などは反映し、1か月に1回ケアカンファレンスを行いケアの在り方について職員全員で検討を行っています。決定した事項から介護計画書を作成し、現状に合ったケアが行われるよう職員一人ひとりが努力しています。	利用者、家族の暮らし方の希望や要望を取り入れ、利用者担当者のモニタリングや、ケアカンファレンスを参考に、関係者の意見を取り入れ、状況に即した介護計画を作成している。個人記録にケアプランの重点目標を記載して評価し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事は記録や業務日誌・申し送りノートに記入し情報共有化に努めています。またケアマネージャーは記録を確認し利用者の状態の変化によって介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の要望には可能な限り対応できるよう努めています。ペットの面会も行っており本人やご家族の思いを大切に出来るよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設との合同夏祭りでは体調に考慮し入居者が楽しむことができました。今後、大きな行事をする際に福祉関係の高校生や町内会のボランティアなどの協力依頼をしていきたいです。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診や訪問看護を受けています。ご本人やご家族の意向を伺い、入居以前からのかかりつけ医への通院を継続できるように支援しています。また医師への情報提供や通院介助も行っていきます。	利用者のかかりつけ医との関係を大切に保ちながら、隣接の協力医療機関との関係を築き、集団往診や訪問看護を受け適切な医療体制を構築している。	

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関からの訪問看護を毎週受けています。ホームで健康に過ごすための助言を頂いています。体調面や認知面、心配な事・今後予想されることなどを伝え把握していただけるよう努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	腸閉塞で入院することは1度ありました。入院した際には、管理者と計画作成担当者・時には職員でお見舞いに行っています。お見舞いに行った時には、医師や看護師との情報交換を行い、早期に退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化していくたびに医師へ相談し意見をいただくなどしており今後予測される状況や可能なケア内容をご家族へ伝え一緒に考えています。	終末期の看取りケアについて、利用契約時に事業所としての方針、指針を説明し同意を得ている。対応が必要になった時には、医療、看護関係者、家族との協議を行い、体制が整えば支援出来るよう研修にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう全職員が救急救命講習を受ける機会を設けています。今後、緊急対応があった場合には対応した職員を中心に良かった点と改善点をあげて次へつなげていきたいです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署職員立会いのもと、日中と夜間の想定で年2回の防災訓練を行なっています。ご家族の参加はありますが町内会からの参加は高齢化もあり困難な状況にあります。町内会の枠にとらわれず隣接する地域住民への参加呼びかけを検討中です。	年2回、6月は日中想定、10月は夜間想定で消防署の指導の下、避難訓練を実施している。2階には歩行困難な利用者用の避難機器「キャリダン」を備え対策を取っている。避難訓練には利用者家族等の参加が有り、更に地域住民へは現在二つの町内会に呼びかけを予定している。	水害や停電等、あらゆる災害を想定した対策の構築と備えを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として失礼のないように言葉かけや態度には心掛けています。丁寧な言葉を使い尊敬・感謝の気持ちを忘れないよう全職員が努力しています。	利用者への声かけは、人格を尊重しに常に注意を払い、敬語、丁寧語等の言葉で接している。また入浴時や排泄介助等の時には、羞恥心に配慮した介護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人に働きかけ決定していただくよう支援しています。意思の伝達が難しい場合は表情やしぐさから関係性を築いていけるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしい暮らしを支援しています。利用者によっては出来ない場合があるため動機づけを行っていけるよう努力したいと思います。安全のためや共同生活ゆえのある程度の決まりごとはあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容室の利用や季節に合った服装をできるだけご本人に選んでいただくなど気を配っています。入浴後に化粧水やクリームを顔につけたりしています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が軽度の方が多いため調理の盛り付けや食器洗い・食器拭き・片付けなどを体調や表情・体への負担など確認しながら見守っています。	母体法人が給食サービスを提供する会社であり、所属する管理栄養士により献立が作られている。利用者の希望や好みは毎月栄養士が訪問する時に報告され取り入れられている他、事業所でも独自に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立を提供し食事・水分量を記録しています。水分を摂取しづらい方には個々に合わせた物(嗜好・嚥下・体調)を提供できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科による検診が年1回あり必要に応じて往診を導入しています。毎食後の口腔ケアを支援し介助が必要な方は口腔ケア用のスポンジを使用したり、歯磨き後の仕上げで歯間ブラシを使用しています。舌の汚れを確認し、清潔を保つようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の体調に合わせて排泄パターンを把握しトイレへ誘導しています。オムツの使用を減らす事は難しいですが皮膚の状態や衛生状態が保てるよう努めています。	介護記録やサービス提供チェック表で一人ひとりの排泄記録をとりパターンを把握し誘導している。自立している利用者にも食事量や排泄状況に注意を払い、スムーズな排泄が出来るよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくり排便が出来るような環境を整え、起床時にヨーグルトや牛乳・ヤクルト・炭酸飲料を飲んで頂いたり、体操など体を動かす機会を作るよう努力しています。自立されている方の排便状況が把握できていないこともあるため今後の課題にしたいと思います。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり入浴日は決まっていますが本人の体調や気分によっては柔軟に変更しています。拒否の強い利用者は心身状態・ご本人の意向、ご家族の意向に沿いながら、不衛生にならないよう誘導しています。時間帯は危険がないよう職員が多い日中のみで対応しています。	利用者の状態や状況を考慮し、週2回を基本として介助している。拒否の強い利用者には強制せず、気が向くように会話して取り組んでいる。浴槽に浸かれない利用者にはシャワー浴で対応するが、浴槽に湯を張り、掛け湯をし満足感が得られるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調などにより居室で休めるように配慮し、不安も安眠を妨げるため常に本人の気持ちを受け止め安心感を与えられるよう努力しています。夜間は光・音・温湿度に気を配り安心して眠れるよう支援しています。特に就寝と起床時間は決めておらず個々の生活習慣に職員が合わせれるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容について作用・副作用共にいつでも確認できる場所にあります。服薬変更時には注意点など記入し職員全員で経過観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持てる人と難しい人がいます。楽しくメリハリのある生活をしていただけるように、入居者と関わる時間を持つよう努力しています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に少人数で誕生会に外出を行ったり、家族との外出支援を行うことができています。喜んでいただけるよう利用者の楽しみを見つけ出し実践していきたいと思います。	近隣のスーパーへの買い物や、ペットを見に出かけたり、ドライブで花見や、祭りに出かけている。また、気候が良くなると、日常的に近所の公園へ散歩、外気浴等に出かけ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は3名います。本人より希望があれば職員と共に近郊のスーパーまで買い物へ行くなど支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合はご家族に相談し承諾を得てから支援をしています。時間帯や本人からの内容によってはその都度納得していただけるような説明を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからリビング全体が見えて安全確保は出ています。行事や外出があった時の写真を掲示したり、太陽の光などを取り入れ温度・湿度・換気には気を配っています。季節に合わせた飾りをなるべく取り入れています。音に対しては全職員が配慮し努力しています。	町からの助成で大型の加湿付空気清浄機を各フロア複数台設置し、なお且つ加湿器やエアコンで快適な生活空間になるよう配慮されている。居間には行事の写真や利用者の作品を掲示したり、自動コーヒーサーバーが有り自由に楽しめるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は決まっていますが利用者同士が会話出来るようオープンになっておりくつろいでいます。居室で過ごされている方も本やアルバムを見て過ごすなど、それぞれが思い思いに過ごされている方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を居室に置き居心地良く過ごしていただけるようにしています。居室に思い出の写真や行事などで撮った写真を飾っています。落ち着いて暮らせる空間作りにも努めています。	各居室は温湿度計と24時間換気で快適な状況に保たれている。利用者は使い慣れたベッドや筆筒等の家具を配置し、家族の写真や絵を飾っている。神棚を祀っている利用者もあり、各自居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりが設置されており安全に歩行できるようにしています。場所の表示やレクリエーション用品の置き場所などに配慮し、入居者が自分で行動できるよう環境整備をしています。安全のため危険な物の管理に気を付けています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700399		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおとふけ		
所在地	音更町木野大通東17丁目1-4		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0194700399-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で話し合い事業所理念を作成し、ホーム内の数か所に掲示しています。入居者一人ひとりの事を考え尊敬する心を忘れず、悩んだ時には理念に立ち返り日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し行事や会議などに参加しています。町内や近隣市町村での行事(祭り、収穫祭等)への参加や隣接の他施設との合同夏祭りなど、地域とのつながりを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな活動には至っていませんが、町内会等の地域住民との交流時や町民の見学時などには認知症への理解が深まるよう相談助言を行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い各ユニット・事業所全体での取り組みや、入居者及び職員の状況についての報告を行っています。参加者からは意見・提案などを頂きサービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは運営推進会議以外にも常に連絡を取りあい、ホームの運営や利用者の状況について細かく把握して頂き、相談しやすく適切な助言を頂ける関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解ができるよう社内研修を行なっています。会議時など、その都度伝え職員が理解できるように努めています。夜間帯のみ安全防犯上玄関を施錠しています(出入口)声掛けや目配りで安心・安全でいられるように日々話し合いながら身体拘束しないケアを心掛けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について正しく理解ができるよう社内研修を行なっています。会議時など、言葉づかいについて話し合うことで防止に努めています。外部研修に参加することで改めて虐待について学べる機会も設けています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について正しく理解できるよう社内研修を行なっています。利用該当者が在籍していた時には家族に成年後見制度について説明し利用支援をしておりますが、家族の意向により制度活用には至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面と口頭による説明を行ない、利用者やご家族の希望や願いを確認しながらホームのケア方針を伝え、疑問や不安が残らないよう説明をし契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時にホームでの様子を伝えると共に、ご家族の意見や希望を確認し協力してケアを行なえるよう連携を図っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職は個別または会議などを通して職員の意見や提案を聞く機会を設けており、各ユニットのケアの資質向上を反映するように日々努めています。管理者から本社担当者や運営代表者へ伝達するシステムができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や経験は給与に反映されていますが、努力や力量が給与に反映されずらくなっています。勤務時間や休日は個々の希望も考慮しながら、両ユニットを兼務することで働きやすい環境を維持できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修の案内を行ない、希望や必要性により参加できるよう勤務調整しています。法人内研修を実施することにより職員全体がスキルアップできる機会を作っています。研修参加者が発表できる機会を設けることにより研修内容を全職員が共有できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、学習会などで情報交換を行なっています。また、同法人の事業所が十勝地区に3ヶ所あるため交流を行い資質向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報は職員間で共有できるように作成し、信頼関係の構築に繋げています。入居後も記録用紙に記入し引き継ぐことで今まで馴染んできたことを不安なく生活できるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要な情報は事前に職員へ伝えており、希望や要望に添えられるよう関係づくりに努めています。来訪時には不安や要望を伺い耳を傾け、些細なことでも職員に声を掛けて頂けるような関係構築をめざしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症状、ADL、医療面、ご家族の介護力、本人の希望、福祉用具の検討などを伺い、当ホームでの取り組み状況を伝え、よりよい生活が送れるよう援助しています。他の介護サービスや民間サービスなどの情報提供を行うなど、相談援助も行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護にならないように配慮しながら関わりを持つようにしています。できることとできないことを見極めしながら、時には職員が支え助けられながら、尊敬と感謝の念を持ち、関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には声を掛け入居者の近況報告をし把握して頂けるように伝えています。行事参加の場面でも多くの協力が得られ、家族との関係構築もできています。毎日面会に来てくださる家族もあり、入居前と同様の関係構築を保つことができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来訪できる体制にしており、友人などの理解も得られ面会に来ていただけ、関係が継続できている方もいます。自宅以外のなじみの場所には行くことができていません。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度が少し高いため入居者同士の関わり合いが少ないです。人間関係を把握し職員が間に入り孤立することの無いように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人やご家族が必要な支援を受ける事ができているか、病院や施設の関係担当者及びご家族を通じて確認し、必要に応じて継続支援ができるように努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から希望や意向を把握し反映できるように努めています。意思の伝達が困難な場合には、普段の様子などから職員同士で検討しています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には自宅など住んでいる場所へ訪問し、ご家族、ケアマネージャーなどから現在の生活、身体状況などの情報収集を行なっています。得られた情報は職員へ伝え入居後のケアへ繋げています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の記録やアセスメントシート、客観的に見た様子などを職員で共有、把握しケアに努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議にて入居者の課題について話し合い、現状について方向性を同じにしています。担当職員によるモニタリングも3ヶ月に1回実施し現場からの意見も反映しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートとは個別に記録し職員間で情報共有を行ないケアに繋げています。ケアで困った時には試行的に行う方法をとっており職員の意見を反映できるよう実践し介護計画見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身状況やご家族の介護力により対応ができていないこともあります。要望にこたえられるよう心掛けています。ご家族の希望時には一緒に食事を食べることは行えています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にスーパーなどがあるため、買い物や散歩に行くことができます。楽しんでいただけるように工夫しながら支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な往診、必要時には通院介助を行ない安心して生活を送ることができる環境が整っています。家族の希望時には、他医療機関の定期通院介助も行う支援をしています。			

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から週1回の訪問看護により、細かい助言を頂くことで心身ともに安心して生活を送られています。訪問看護時には、体調面、認知面、心配事なども相談させていただいています。入居者とも顔なじみの関係が構築され受診もスムーズに行えています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関と往診、訪問看護時、入院者の面会に行った際などに情報交換を行っております。家族とも連絡をとり状態(状況)に合った対応をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調面など定期的(面会時などに)報告し、現状を把握できるように努めています。協力医療機関には往診、訪問看護時に相談し助言をいただくことで支援できる体制を構築しています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは目につきやすい所へ掲示しています。実践の場面は少ないため勉強をし備えていこうと思います。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署職員立会いのもと、日中と夜間の想定で年2回の防災訓練を行なっています。ご家族の参加はありますが町内会からの参加は高齢化もあり困難な状況にあります。町内会の枠にとらわれず隣接する地域住民への参加呼びかけを検討中です。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応と捉えられないように日々心掛けています。改善が必要な場合には会議時などに振り返りを行ない改善に繋げています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者と会話を持てるよう心掛けています。わかりやすい言葉で伝え、会話や表情などを観察し自己決定できるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のため全ての要望を叶えるのは難しいですが、受け入れるように(ためには)を考え支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室時には、自ら髪型を伝える方もいます。職員と服を選んだり身だしなみに努めています。			

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	体調面に配慮しながら食事の盛り付けや食後の食器拭きを行なって頂けるよう支援しています。行事のメニューは入居者、職員と話し合い、嗜好に合わせて提供し、おいしく、たのしく食べれるように工夫しています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは管理栄養士が作成し栄養バランスが保たれています。食事形態は主治医や歯科医と相談し嚥下状態に合わせて提供、嗜好については個別対応しています。水分は職員間で把握し、取りづらい時にはゼリーなどで提供し摂取できるように努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持、観察を行なっています。ひとりひとりの残存能力に合わせた支援をしています。協力歯科医院より年1回歯科検診に来ていただき助言を受け必要に応じて往診に繋がっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄間隔を把握し定期的な声掛け、誘導を行ない不快感のないように努めています。パット類は尿量などを把握し、本人、家族、職員と相談し適した物を使用しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の把握や乳製品を提供し食べていただいています。運動や体操をその日の体調に合わせて行うなど便が出やすいように努めています。下剤の使用が必要な方は多くいます。今年度、「便秘改善」について取り組みを行なったことにより職員の意識に変化が生じることができました。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	集団生活のため入浴予定日や時間は決められてしまっていますが、本人の気分や体調に配慮し、柔軟な対応により入浴できるように努めています。入浴が気分転換や清潔保持の場となるよう継続して支援していきます。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操などの活動を行なっています。精神面が不眠に繋がることもあるので気にかけています。就寝や起床時間に個人差はありますが、それぞれの生活リズムに合わせるよう努めています。夜間帯は光、音、温度などに配慮し安眠に繋がる支援を行なっています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内研修で危険なこと副作用についてなど学ぶことができました。入居者の服薬内容は確認しやすくなっています。服用方法も掲示しており変更が必要な際には職員と話し合い安全に服用できるように努めています。服薬変更時には職員へすぐ周知し、家族へは面会時に伝えて理解していただいています。			

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやお手伝いなどから張り合いや喜びが持てるように接していますが、うまく引き出すことができないこともあります。単調な支援にならないよう努めていきたいと思ひます。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者全員の要望を叶えることは難しいですが、天候をみながら買い物や散歩を行うように努めています。大きな行事は家族の理解、協力、参加により楽しい場を提供させていただくことができます。			

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が現金管理や適切な使い方が困難であり、家族や施設側で購入しています。1名は少ない金額を自己管理していますが、買い物に行く支援には至っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自ら電話を掛けたい、手紙を出したいという要望は少ないですが、電話がかかってきた時は話すことができます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節にあった装飾や行事の写真を掲示するなど行えています。天候などにも配慮し不快な環境にならないように努めていますが、生活音が時に不快と感じさせてしまうこともあるので注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	介護の都合上、食事席は決めています。リビングのソファは好きなところへ座ることができますが、入居者同士で自然と座る場所が固定されている現状がみうけられます。居室で編み物を行なう方もいますが、共有空間でのんびり過ごす方が多くいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族と相談しながら自宅で使い慣れた家具を持ち込んでいただけるようお願いをしています。幼少期や家族写真、入居後の写真を居室に飾らせていただき懐かしむ方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	その日の体調にあわせながら、能力を発揮できるように努めています。認知症高齢者の視点にたち、場所や物がわかりやすい空間を作り、安全かつ不安のない生活を支援しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームおとふけ

作成日：平成 27年 2月 8日

市町村受理日：平成 27年 2月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・火災以外の防災への取り組みや備えが充分ではない。 ・所属している町内会では高齢化が進んでおり、災害時の協力を得る事が困難な状況が予測される。	・あらゆる災害への対策を考え、情報収集と備えを行なう。 ・災害時に多くの方々と相互協力できる体制を作る。	・水害時の危険地帯を把握し、対応マニュアルの作成を行なう。 ・停電時の暖房対策を検討し、必要な備えを完備する。 ・物資停滞時に備え、食品及び日用品の確保を行なう。 ・他町内会や隣接施設など、協力者を開拓する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。